

小塩山勝持寺は春日社の西北にあり。「花の寺といふ」宗旨は天台にして、本尊は薬師如来〔伝教大師の作〕本堂

の額は小野道風の筆、当寺ははじめの開基は役行者にして、自作の不動明王を本尊とし、大原寺と号す。「不動尊今堂

内に安置す」伽藍僧坊四十九院魏々として嚴重たり、年経て破壊に及びしを、仏陀上人再建す。「文徳天皇仏陀上人を

御帰依ありて、伽藍をいとなみ給ひしなり」岩窟の石不動は弘法大師の作なり。西行法師像、西行桜、「堂前の左右に

あり」西行庵室〔山上三町ばかりにあり、当山の境内に桜花多し、盛の頃は都下の貴賤こゝに来つて終日花の陰にて

歌よみ、西行の霊を慰るも多し〕

冨野沼〔石壇の下にあり〕辨財天社〔池のほとりにあり〕

役行者窟〔西の山上にあり〕

夫 木 いかにけささえ野の沼や凍るらん小塩の山に雪はふりつ、 光 俊

毘沙門天〔伝教大師の作なり、本堂に安置す〕地藏菩薩〔同作なり、方丈にあり〕

役行者像〔堂内に安置す〕白山社〔当山の鎮守なり〕二王門〔金剛力士を安置す、阿の像は運慶の作、吽の像は湛

慶の作なり〕玄寶石〔林の中にあり、むかり玄寶僧都此地に住給ひしとぞ〕

慈鎮和尚も此地に隠れ給ひ、虫の音を聞てよめる、

続後撰 草深き宿のあるじももろともにうき世を侘る虫の声哉

慈 鎮

元和年中若狭守勝俊、世業をさけて此山に幽居せられ、名を天哉翁長嘯子と自称して、また東山靈山にも居られしなり。〔此人和歌に名高く拳白集をかけり〕長嘯塚、弥生桜、驢上岩、指月池等此地にあり〕細川玄旨幽斎も長岡に閑居せられし時、連歌の宗匠数輩あつまり、此寺において元龜二年二月五日より連歌を興行せられしなり、これを大原千句とて世に名高し。〔連歌の懷紙は当寺の什物となる〕